

各務原市次期緑の基本計画(素案)に 対するご意見と市の考え方

本市では、現行の各務原市緑の基本計画が令和 7 年度に目標年次をむかえることから、令和 8 年度～令和 17 年度における本市の緑豊かなまちづくりの将来像、方針、施策などを示す「各務原市緑の基本計画(素案)」を公表し、下記のとおりパブリックコメント(意見募集)を実施しました。

その結果、1名の方からご意見をいただきました。いただいたご意見と市の考え方は次のとおりです。

◆実施期間

令和 7 年 12 月 15 日(月)から 令和 8 年 1 月 5 日(月)まで

◆意見の提出状況

提出者数 1名

提出意見数 1 件

ご意見 1

対象箇所	一
ご意見	
<p>昨年の夏は猛暑で、大変苦痛でした。それは地球温暖化のせいだと言われています。恐らくこの先も夏は猛暑になることでしょう。</p> <p>しかし、この問題を個人で解決することは、どれだけ工夫をしても無理に近いです。私はとても虚しい思いになります。</p> <p>しかしそんなある暑い夏の日、ウォーキングをしていたら、所により気温が低く感じられる場所が有ることに気がつきました。</p> <p>それは雑木が生い茂る”やぶ”のような場所や、川原からの風が流れてくる堤防辺り、河跡湖公園などです。</p> <p>その辺りを通ると、ヒンヤリとした空気が流れていて、生き返るような思いがしました。</p> <p>そこで私は思いました。地球温暖化を各務原市が食い止めることは難しいですが、ヒンヤリとした場所を増やすことはできるんじゃないかな?</p> <p>つまり背の高い植物を街中に増やし、影になるような場所を作る。そして可能なら、そんな場所はアスファルトは減らす方向で進める。</p> <p>それが出来れば、空気が少し冷やされ、歩行者や近所の住民にとって夏が凌ぎやすくなり、暮らしやすい環境になると思うのです。</p> <p>私が住む川島地区は、かつては竹やぶや松林が多くあるような場所でした。しかし現在は住宅地と化し、緑が殆ど無くなってしまいました。</p> <p>加えて街路樹も川島緑町にはかつて有ったのですが、それも枯れてしまったのか、今では殆ど無くなってしまった状態です。</p> <p>街中に新たに藪や公園を作ることは難しくても、既にある公園に高木を植えたり、街路樹を復活させることは、容易ではないでしょうか?</p> <p>あと、話は少しずれますが、木曽川の河川敷の雑木を定期的に切っている件で(どの団体が切っているのか分かりませんが)、それもそんなに切る必要が有るのか?と不思議に思います。もちろん洪水対策であることは承知していますが、地球温暖化対策として植物をもう少し残しても良いのではないか?と思ったりもします。</p> <p>色々と申しましたが、つまりは第一に猛暑対策の植栽計画。第二に地球温暖化ストップにつながる植栽計画をお願いしたいと思います。</p> <p>管理や予算の問題があると思いますが、どうぞ宜しくお願ひします。</p>	

各務原市の考え方

街路樹や公園樹木などの緑は、緑陰の形成や地球温暖化の緩和などの多様な機能を有し、良好な都市環境の形成のために重要なインフラと考えており、これまで、道路や公園などの公共施設の整備において、積極的に樹木などを植栽するとともに、民有地についても接道緑化に対する補助制度を設け、緑化を推進してまいりました。

次期緑の基本計画においては、更なる緑化の推進を図るため、新たに緑が有する多様な機能をまちづくりに取り入れていくグリーンインフラの方針を設定し、桜並木の計画的な更新や街路樹・公園樹木の適正管理、民有地緑化の継続支援、公共施設への緑化推進、花苗配布事業による彩りの創出などの施策を盛り込んでいます。ご意見をいただいた「植栽計画」については、緑化を推進する施策の1つとして考えております。